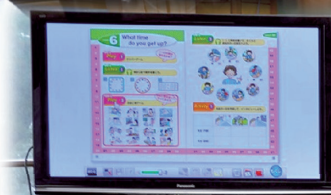




* 13:40
教室で機
材の確認

今日は、中学校の
A先生がメインで、
小学校のB先生がサ
ブに回ります。



1 学期の授業の経験か
ら、小学生の状況に合わ
せて指導しています。

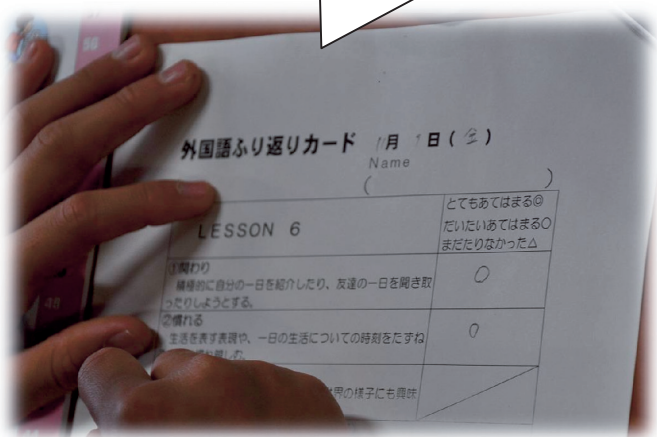


小学生も2度目の授業
で、A先生にすっかり慣
れています。

授業の最後に振り返りカ
ードを記入させて、評価は
もちろん、A先生も今後の
指導に役立てます。

○ 3回目の出前授業に向けて

- ・ どの単元で、どのような学習活動を設定するか、外国語活動の指導計画に沿って中学校のA先生と事前に打ち合わせする必要がある。
- ・ その打ち合わせをもとに、A先生が学習指導案を作成するため、中学校の英語の授業に近い学習活動が展開されると思われる。
- ・ 2回目の出前授業で明らかになった、活動量やキーセンテンスの設定などの課題を3回目の授業に生かしていく。



■ 取組を行って

○ 中学校 A 先生のお話から

- ・ 小学校にかかわることで、進学してくる子どもたちの状況を自分の目で見ることができ、入学後、出前授業で知り得た情報を活用できている。
- ・ 小学校での外国語活動がどのような教材で、どのような学習スタイルで展開されているかを把握することができ、小学校の学習経験をもとにして中学校の英語への導入を円滑に図ることができる。



○ 小学校 B 先生のお話から



- ・ 中学校から始まる教科を A L T ではなく、中学校の先生から直接学ぶことで、英語だけでなく、中学校の授業に触れるという感覚も味わうことができるため、子どもたちの頑張りが更に引き出される。
- ・ 3 回とも A 先生から学ぶことで、子どもたちが親しみをもって学習することができ、四中訪問（新入生オリエンテーション）の感想で、「A 先生が中学校にいてとても安心した。」という声が聞かれた。

■ まとめ

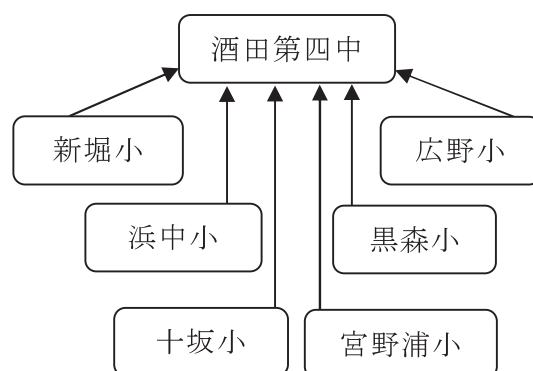
出前授業は、外国語活動の指導を英語の専門性の高い中学校教諭に依頼したい小学校の思いに、中学校が応えたものである。しかし酒田市立第四中学校区では、それを複数回実施することで、新入生への理解の深まりという、中学校にとっても価値のある取組としていくところに、連携への積極性を感じた。

また、6 年生に、中学校で経験する小中の学びの違いを 1 年間かけて 3 回の出前授業に分散させて、段階的に感じさせることができる。それを小中学校が連携して創出することが、子どもの実態に寄り添った学びを提供することにつながると感じた。

□ 学校基礎データ（平成 24 年度）

学校名	児童生徒数（学級数）
酒田市立第四中学校	563 名（20 学級）
酒田市立新堀小学校	127 名（6 学級）
酒田市立広野小学校	113 名（6 学級）
酒田市立浜中小学校	116 名（7 学級）
酒田市立黒森小学校	51 名（6 学級）
酒田市立十坂小学校	281 名（12 学級）
酒田市立宮野浦小学校	382 名（15 学級）

< 単一複連携 >



庄内町立立川中学校区

「立川スタンダードの取組」

～小中のめざす姿を共有して学力アップへ～

■ はじめに

庄内町立立川中学校区には、かつて立谷沢小、清川小、狩川小の3つの小学校があったが、平成21年に統合し、現在の立川小学校1校となることで、統合に向けた小学校間の連携の強化が必要であった。また統合後、小学校からそのまま全員が中学校に進学することになるとともに、小中学校ともに1学年2学級規模であることから、児童生徒の人間関係が9年間継続し、硬直化していくことも危惧された。

そこで平成20年に、小中学校が連携して教務関係や生徒指導、健康安全指導、特別支援教育に関することなどの多岐にわたる、「立川子ども」を育てる1つの指針が作られ、「立川スタンダード」（次ページ参照）と名付けられた。それに合わせて、小中学校全教職員が各部会に分かれて実践に取り組んでいる。本稿では、「立川スタンダード」を基に学習指導にかかわる取組を紹介する。

ここに注目！

■ 立川スタンダードを支える背景

○ 「立川教職員懇談会」の開催

この会は、年度始めの小中学校全教職員による年1回の顔合わせである。そこでは、互いの懇親を深めつつ、小中学校の児童生徒すべてが「地域の子」という意識を共有できる場となっている。小学校の教職員にとっては、「中学生（＝卒業生）の姿を見ることで、6年間でつける力が明らかになる」場であり、中学校の教職員にとっては、「小学校の丁寧な指導の実践を直接聞いて、その良さを吸収できる」場として意義深い時間を共有することができる。

そうした小中学校の教職員の顔が見える交流から、お互いに何でも言える雰囲気が醸成され、そこから様々な連携のアイデアが生まれている。

○ 庄内町教育委員会による「庄内町立小中学校 学びの連携」の提示

庄内町教育委員会は、連携のねらいを「地域、家庭、学校が連携し、『庄内町らしい子ども』を育てよう」と「9年間を見通した望ましい習慣や態度を身につけさせよう」の2つを設定し、小中学校に提示している。

そして、取組の視点を「学習習慣・態度」と「生活習慣・態度」の2つに分けて、それぞれに具体的な行動目標が明記されている。例えば、「学習習慣・態度」の視点においては、右のとおりである。

小中学校ともに、「学びの連携」に掲げられた具体的な行動目標の成果や課題等を教師がもち寄って話し合うため、それぞれがめざす方向性を焦点化しやすくなる。

「学習習慣・態度」の視点

- 1 話を最後まで聞く力と態度を身につける。
- 2 家庭学習の定着を図り、課題に対して最後まで取り組む。
- 3 物を大切にし、身の周りや学校用具の整理整頓をすることができる。
- 4 忘れ物をしない。
- 5 文字は丁寧に、時間内に書く。

